

建物の健康寿命を伸ばすリフォームへ

2024年、日本人の平均寿命は、男性が81.09歳、女性が87.13歳だったそうです。大正時代まではこれが50歳に満たなかったというのですから、欲を言えばきりがありませんが、この100年の間に「長生き」という目標はかなりの程度達成されたと言えるのではないのでしょうか。ところが、寿命が伸びてみると、老いに伴う人生の困難が色々出てきているようにも思われます。そこで今度は、介護等を必要とせず自立して生きていける状態を何歳まで保てるのか、つまり「健康寿命」というものが重要だということになってきました。2022年のデータですが、日本人の健康寿命は男性が72.57歳、女性が75.45歳ということになっています。平均寿命と健康寿命の差は男女ともおおむね10年程度。その年月は自立して生きていけないということになります。平均寿命を短くすることなく、健康寿命とのこの差をいかに短い年数にできるのか、それが多くの人の関心事です。

さて、長々と日本の住宅の話ではなく日本人の話をしてきましたが、それは、住宅も同じだと思っているからです。建ててから取り壊すまでの年数を建物の寿命というならば、日本の住宅の寿命は明らかに長くなっています。日本の住宅の寿命が30年足らずと言っていたのがまるでウソのような状況です。30年どころではなく、50年或いは100年経っても取り壊されず、そのまま空き家になっている建物が日本中にゴロゴロしている時代です。こうなってくると、人間と同じく健康寿命の方が大事になってきます。それをいかに伸ばせるか、そこに人知を集中させるべき時代になってきているのです。

今年度の上位賞を受賞された7つのリフォーム事例、それぞれの建物が何歳になった時にそのリフォーム工事をしたのかを長いものから並べてみますと、94歳、70歳、69歳、52歳、51歳、48歳、39歳ということになります。建ててからの年数が相当長いものが多いと感じられるのではないのでしょうか。恐らく20年も前ならば、こんな年数の分布になるとは想像もつかなかったことでしょう。日本の建物の寿命が伸びていることの証です。そして、それぞれのリフォーム工事の設計者や施工者が施主や住み手と一緒に知恵を絞り、実行したのは、それらの建物の健康寿命を伸ばすことに他ならなかったのです。私たち審査委員会は、これならここから先長く健康を保てるだろうと評価したのだと言って良いでしょう。

建物の取り壊しが必要なかったり、難しかったりする今日の状況下での一番の課題は建物の寿命ではなく、建物の健康寿命を伸ばすことです。そして、リフォームこそ、この課題に正面から答える最も重要な建築行為なのです。

是非、皆様とご一緒にこの重要な行為、リフォームを盛り上げてまいりたいと思います。来年度もたくさんのご応募、楽しみに致しております。

第42回住まいのリフォームコンクール審査委員会
審査委員長 松村秀一